

■ テーマ展「柳桜をこきませてー柳と桜のデザイナー」 作品リスト ■

番号	名称	作者	数量	制作年代	所蔵・作品番号
【柳と桜の競演】					
1	かんふうおうりゅうず	かのりょうしょう			
	観楓桜柳図	狩野了承	3幅	江戸	当館(井伊家伝来)
2	のうしょうぞく しろじだれやなぎにさくらおながどりもんようちょうけん				
	能装束 白地枝垂柳に桜尾長鳥文様長絹		1領	江戸	当館(井伊家伝来)
3	のうしょうぞく むらさきじはななごとやりうめもんようちょうけん				
	能装束 紫地花籠と槍梅文様長絹		1領	江戸	当館(井伊家伝来)
【華やぎの桜】					
4	さくらず	かのうえいがく			
	桜図	狩野永岳	6曲1双	江戸	個人
5	おじゅうます	とくがわつなよし			
	桜樹馬図	徳川綱吉	1幅	江戸	当館(井伊家伝来)
6	あらしやましゅんけいず	まつむらけいぶん			
	嵐山春景図	松村景文	1幅	江戸	当館(井伊家伝来)
7	おうかすかしもんつりどうろう				
	桜花透文釣灯笼		1箇	江戸	当館(井伊家伝来)
8	おうかもんつば				
	桜花文鐘	鎌田乗寿	1枚	江戸	当館(井伊家伝来)
9	りゅうてき めいこざくら つけたりいいなおあきわか				
	龍笛 銘小桜 附)井伊直亮和歌		1管	江戸	当館(井伊家伝来)
10	くわきざくらまきえるぶち				
	桑木地桜蒔絵炉縁		1箇	江戸	当館(井伊家伝来)
【枝垂れる柳】					
11	のうしょうぞく こんじやなぎとりゅうすいにみずべぐさもんようぬいはく				
	能装束 紺地柳と流水に水辺草文様縫箔		1領	江戸	当館(井伊家伝来)
12	のうこどうぐ きんじりゅうきょうはくろずちゅうけい				
	能小道具 金地柳橋白鷺図中啓		1握	江戸	当館(井伊家伝来)
13	しゅんけいさんすいず	たのおらちよくにゅう			
	春景山水図	田能村直入	1幅	明治11年 (1878年)	当館(個人寄贈)
14	しゅうるしぬりやなぎまきえふばこ				
	朱漆塗柳蒔絵文箱		1合	江戸	当館(井伊家伝来)
15	くろうるしぬりやなぎまきえりょうしばこ				
	黒漆塗柳蒔絵料紙箱		1合	江戸	当館(井伊家伝来)
16	くろうるしぬりいとやなぎつばめまきえなかつぎ	きんじょういっこくさい			
	黒漆塗糸柳燕蒔絵中次	金城一国斎	1合	江戸	当館(井伊家伝来)
17	くろがきやなぎまきえながなつめ				
	黒柿木地柳蒔絵長棗		1合	江戸	当館(井伊家伝来)
18	くろうるしぬりいっかんぱりやなぎまきえなつめ	ひらいいっかん			
	黒漆塗一閑張柳蒔絵棗	飛来一閑	1合	江戸	当館(井伊家伝来)
19	しちごんしよ「やなぎ」	じくし			
	七言詩書「柳」	竺子	1幅	江戸 天保14年 (1843年)	当館(井伊家伝来)
20	らくやきやなぎつばめずちやわん	いいなおすけ			
	楽焼柳燕図茶碗	井伊直弼	1口	江戸	当館(個人寄贈)

写真解説

*番号は作品リストの番号と一致します。

2 能装束 白地枝垂柳に桜尾長鳥文様長絹 1領

丈114.7cm 桁114.9cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

全体に金糸で枝垂柳をあらわし、桜の折枝と尾長鳥とを交互に配した1領。白地に柳の金、桜と鳥の柔らかな色彩が映え、春の明るい気分が横溢します。長絹は能特有の装束で、おもに舞を舞う女役に用いられるものです。



4 桜図 狩野永岳筆 6曲1双

【写真は右隻】

各縦158.0cm 横363.4cm

江戸時代

個人蔵

あふれんばかりの満開の桜。作者の狩野永岳(1790-1867)は、桃山時代の狩野永徳の高弟、狩野山楽(1559-1635)を祖とする京狩野家第9代。朝廷の御用を中心に幅広い層に受け入れられ、彦根藩の御用もつとめました。本作は、山楽の末裔であることを誇りに、桃山時代を志向した永岳の代表作の1つ。画面いっぱいの金箔による金雲と、鮮やかな極彩色、画面を突き抜ける構成等、桃山の豪壮な気分を伝える中で、桜の花弁の描き方などには当代の風も見えます。



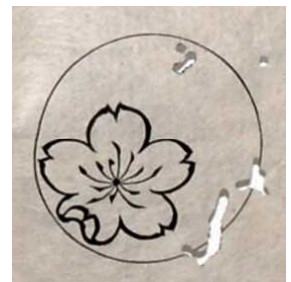
8 桜花文鐺 鎌田乗寿作 1枚

径7.3cm 厚0.3cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

ひらりと舞う柔らかな花弁を持つ一輪の桜花を象嵌した鐺。彦根藩井伊家12代直亮(1794-1850)が作らせた刀装具の鐺です。彦根藩井伊家文書の中に、この鐺のデザインに通じる、月に桜花を配した図が伝来しますが、これは、月華亭とも号した直亮の印の案とみられるものです。この鐺の円の形も月に見立てたのかもしれませんが。



(参考)月華亭の印案

直亮は、自らが建立した煎茶室の板小壁に桜の花が描かせ、彦根城の北東に位置する大洞弁財天の境内に2千株の桜を植樹させたりと、桜を好んでいた形跡が見て取れます。

おおぼらべんざいてん

16 ^{くろうるしぬりいとやなぎつばめまき え なかつぎ きんじょういつこくさい} 黒漆塗糸柳 燕蒔絵中次 金城 一国斎作 1合

径8.6cm 高8.6cm

江戸時代

当館蔵（井伊家伝来資料）

円筒形の中ほどに合口がある、中次形の薄茶器。金蒔絵と黒漆とで表された枝垂柳（糸柳）の太い枝から、細枝がまるで雨のように垂下し、その中を燕が舞うという可憐な意匠です。伊勢松坂出身で、名古屋で活躍した漆工、金城（本姓 沢木）一国斎（1777-1851）の作。



20 ^{らくやきやなぎつばめ ず ちゃわん い いなおすけ} 楽焼柳 燕図茶碗 井伊直弼作 1口

口径18.1cm 底径8.3cm 高9.6cm

江戸時代

当館蔵（個人寄贈）

井伊家13代直弼（1815-60）が作った濃茶用の楽焼茶碗。胴の外側には、2本の柳の木と「龍池柳色」「雨中深」の文字、口縁の内側に8羽の燕をあらわし、高台内に花押を書き入れています。7つの文字は、平安時代中期に藤原公任が撰じた歌謡集「和漢朗詠集」所収の中国の漢詩の一節「龍池柳色雨中深」（*1）。

謡曲「三井寺」にも採り入れられています。

直弼は、庶子時代を過ごした屋敷に柳を植えて「柳和舎（柳王舎）」と名付け（*2）、自身の和歌集に「柳廼四附」と命名、花押も「柳」の字をもとにするなど、柳に対する思いは並々ならぬものがありました。



花押部分

*1 中国・中唐の詩人、銭起の「闕下贈裴舍人」。

*2 それ以前に「埋木舎」と名付けていた。